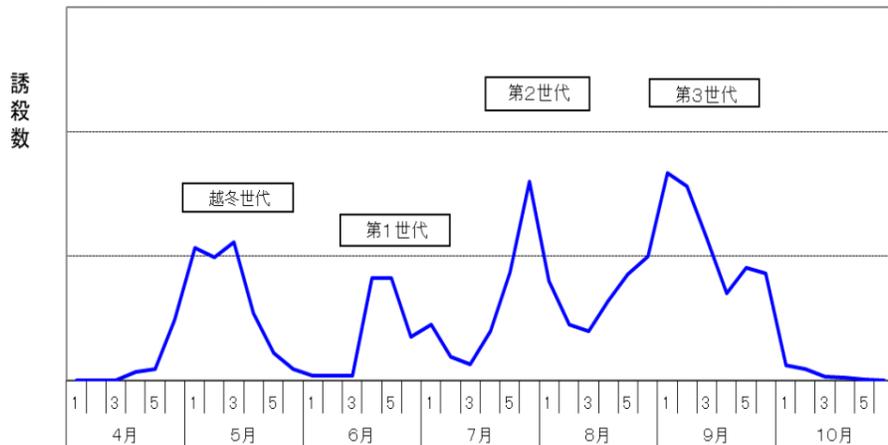


スモモヒメシクイのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病害虫防除部

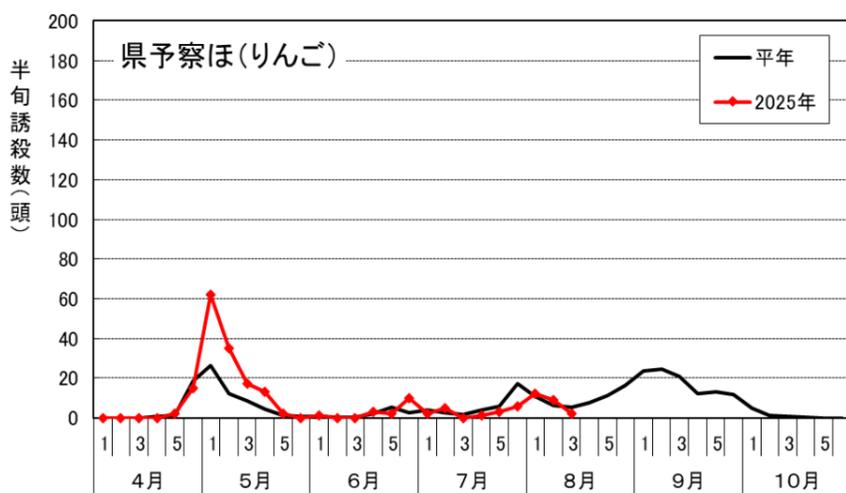
過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 県予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年3～4回発生する。
- ・越冬世代成虫は4月下旬～5月上旬、第1世代成虫は6月下旬～7月上旬、第2世代成虫は7月下旬～8月上旬、第3世代成虫は9月上旬に発生する。
- ・日本すももは、第1世代、第2世代の卵及びふ化幼虫の防除を行う。
防除適期はそれぞれ5月上旬～6月上旬、6月下旬～7月中旬であり、10～14日間隔で防除する。
- ・りんごは、第3世代の卵及びふ化幼虫を対象に、8月中旬頃から5～7日間隔で防除する。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



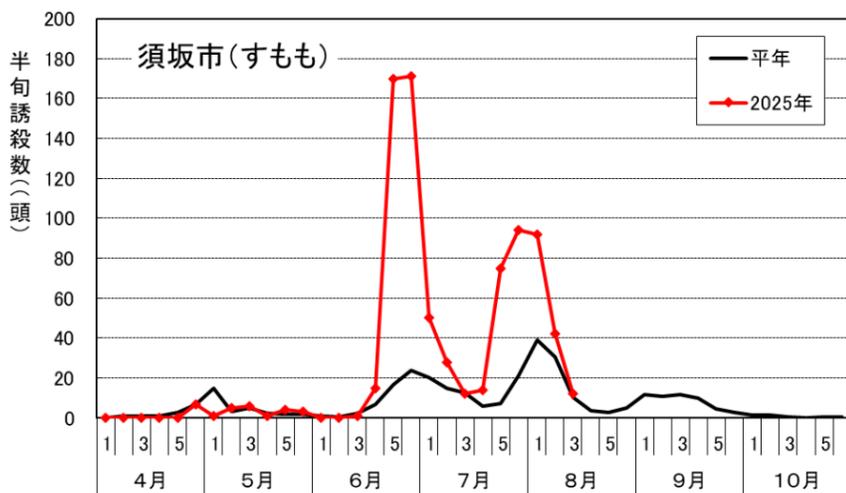
【調査地点】（標高約350m）

- ・須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・5月上旬の越冬世代成虫の飛来は平年より多かったが、6月後半の第1世代成虫の飛来はそれほど多くなく、7月後半から始まると推察される第2世代成虫の誘殺も、まだ平年より少ない。

○須坂市（病害虫防除部）



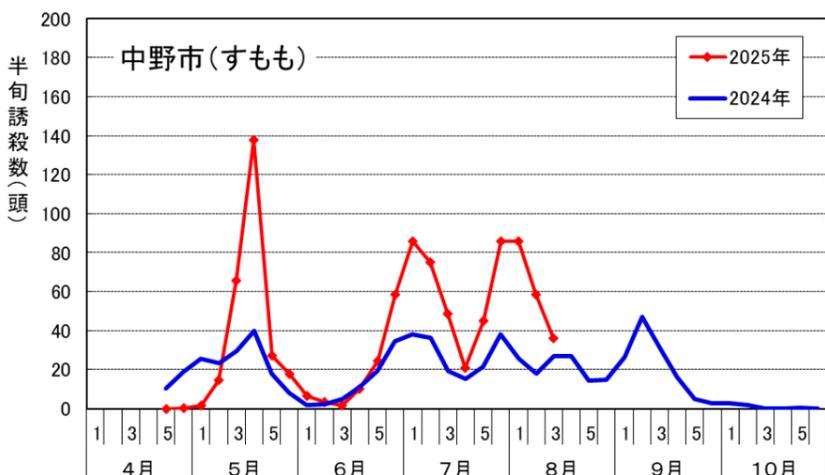
【調査地点】（標高約370m）

- ・須坂市（日本すももほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・越冬世代成虫の誘殺は平年より少なかったが、6月後半の第1世代成虫の誘殺は平年の8倍ほどとかなり多かったです。
- ・第2世代成虫の誘殺も、平年よりやや早い7月第4半旬過ぎに始まり、7月第6半旬の誘殺数は平年の約4.5倍とかなり多くなっている。

○中野市（※北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約350m）

- ・中野市（日本すももほ場）
- ・2024年からほ場を変更したため、平年値なし。

【コメント】

- ・越冬世代、第1世代どちらも成虫の誘殺数は昨年よりかなり多かったです。
- ・第1世代成虫の誘殺終了後、すぐに7月第4半旬から第2世代成虫の誘殺が始まり、第6半旬の誘殺数も昨年の2倍程度と多くなっている。
- ・第2世代成虫の誘殺ピークは8月初旬で、第3半旬に向かい減少し、終息しつつある。